



流通経済大学

履修要綱

経済学部

(2023入学生用)

目 次

教育方針

教育課程表

経済学科 教育課程表

1. 基本科目	8
2. 外国語科目	8
3. 教養科目	10
4. キャリア科目	12
5. 専門科目	13
6. 教職科目	17
卒業に必要な単位数	18

経営学科 教育課程表

1. 基本科目	19
2. 外国語科目	19
3. 教養科目	21
4. キャリア科目	23
5. 専門科目	24
6. 教職科目	28
卒業に必要な単位数	29

履修の手引

1. セメスター制	31
2. 単位制	31
3. 最高履修単位数	31
4. 3学年進級に必要な単位数	31
5. 学籍	32
6. 科目の履修	33
7. 単位の修得	34
8. 授業時間	34
9. 休講と補講	34
10. 出席調査	34
11. 災害時の授業	35
12. 試験	35
13. 不正行為	36
14. 成績評価	36
15. G P A	37

16. 他キャンパス受講	38
17. キャンパス変更	38
18. 演習の履修	38
19. 卒業論文・卒業研究	39
20. 選択科目	39
21. 単位の認定	40
22. 資格の取得	45
23. 履修計画と履修モデル	46

教育方針

経済学部教育方針

経済学部では、経済学や経営学の専門知識を基礎に、広い国際的視野と的確な情報処理能力をそなえた教養ある人材の養成を目的とする（流通経済大学・学則・第4条の2）。

教育理念

21世紀をむかえ、政治、経済、文化活動は、これまで以上に世界的な規模になっています。コンピュータの発達など、情報通信分野の急速な技術革新は、大量の情報を収集、処理し、それにもとづいて判断を下すことを私たちに求めています。国際化、情報化の時代に生きる私たちには、国際的視野と情報処理能力を備えた判断力を身につけることが必要とされています。

流通経済大学経済学部では、このような現代社会の要望に応じて、経済学や経営学の専門知識を基礎に、広い国際的視野と的確な情報処理能力をそなえた「教養ある実業人」を育成し、社会に送り出すことを教育理念としています。みなさんには、課題を確実に遂行できる力を身につけ、社会の各分野で信頼される人物になってほしいと考えています。この「教養ある実業人の育成」という教育目標は、健全な企業人としても、教養豊かな市民としても、社会に貢献できる人物を育成するという本学の建学の精神にもとづいています。こうした教育理念の下、経済学部では、次のような教育方針を立てています。

教育方針

21世紀に通用する実業人とは、企業人とどまらず、社会の発展と福祉に貢献する社会人、教養人を意味します。経済学部では、幅広い教養を身につけるとともに、経済学および経営学の基本的な理論と、実践に結びついた専門的な理論を学ぶことのできる学習環境・プログラムを用意しています。経済、経営、物流といった専門領域の研究を深めるための科目、国際的な視野を養う多様な外国語科目、そして幅広い教養を身につけるための人文・社会・自然科学の各分野の科目、コンピュータ関連科目など、数多くの科目を設置しています。

また、本学の開学以来の一貫した教育方針として、全員ゼミナールの実施があります。経済学部では、少人数クラスのゼミで、みずから調べ、書き、検討し、報告することによって、自分の頭で判断し、自分の考えを明快に主張できる人材を育てることをめざしています。教員によるきめ細かな指導によって、教養ある実業人として必要な能力、たとえば、専門書を読む力、報告書を作成する力、コンピュータを使って情報を処理する力、自分の意見をわかりやすく発表する力などを身につけます。経済学部では、経済学科と経営学科がそれぞれの学科の特性を生かして、カリキュラムを設定しています。

経済学科の教育方針

教育目的（流通経済大学・学則・第4条の2）

経済学科では、経済・社会情勢を的確に見極めるための基礎知識を持ち、実践の場においてこれを応用できる人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経済学科では、「経済・社会情勢を的確に見極めるための基礎知識を持ち、実践の場においてこれを応用できる人材を養成」することを目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や技能、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（経済学）の学位を授与します。

【ゆたかな教養】

DP1-1：人文・思想、地域・歴史、社会、自然、健康および外国語に関する幅広い教養を学び、持続可能な社会で活用できる見識と能力を身に付けている。

DP1-2：就職、仕事、家庭や趣味などを含めた人生全体を形成するための知識、方法や資格を身に付けている。

【知識と技能】

DP2-1：経済学の理論と現実の経済をバランスよく学習し、それにもとづいて課題に対応していく知識や技能、態度を身に付けている。

DP2-2：実践的な講座により培われた知識と技能に基づいた社会・企業における職務遂行能力を身に付けている。

【問題発見と解決力】

DP3：自分で考え、周囲の人と意思の疎通を図りながら、問題を解決していく知識や能力、態度を身に付けている。

【コミュニケーション力と社会貢献力】

DP4：国際社会やビジネスの現場で活躍するために必要なコミュニケーション力を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経済学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において規定されている学位授与の要件である各種の能力を持つ人材を効果的に育成できるよう、以下のような教育内容および教育方法に基づきカリキュラムを編成・実施するとともに、教育評価を行います。

教育内容

CP1：国際社会で活躍できる人材の育成に向け、コミュニケーション力の向上を念頭に置いた外国語科目を配置する。(DP1-1)

CP2：広く社会に貢献できる教養豊かで視野の広い人材の育成に向け、人文科学、社会科学、自然科学に対する理解を深める教養科目を配置する。(DP1-1)

- CP3：生涯学習のための知識と自己実現に向けた能動的な姿勢を育成するキャリア科目を配置する。
(DP1-2)
- CP4：社会人として必要な幅広い視野を身に付けるための、経済学に関連の深い他の学部、学科の科目を配置する。
- CP5：教員免許を取得するための教職科目を配置する。(DP1-2)
- CP6：体系的な経済学を学ぶ起点として、経済学の基礎理論に触れ、現実の経済現象への興味を喚起するための必修科目を配置する。(DP2-1)
- CP7：経済学の専門的知識を積上げていくために必須となる、共通の知的基盤を形成するための科目を配置する。(DP2-1)
- CP8：経済学の諸分野を学ぶために必須となる、分野に対応した専門基礎科目を配置する。(DP2-1)
- CP9：経済学の応用・発展的分野を学ぶために必須となる、専門基礎科目と連動した専門発展科目を配置する。(DP2-1、DP2-2)
- CP10：専門分野における知見と実学的な知見を融合し、ビジネスの現場で通用するコミュニケーション力を高めるための科目を配置する。(DP4)
- CP11：コミュニケーション力および課題を発見し解決する能力を育成するための演習を配置する。
(DP3)

教育方法

- 各学年に必修科目として演習（ゼミ）を開設し、アクティブ・ラーニングを通じ、学生の能力・資質に応じた少人数教育を実施する。
- データサイエンス力を修得するために、コンピュータを活用する実習科目を開講する。
- ノートパソコンを携帯し、コンピュータ実習のみならず、講義科目および予習・復習で活用する。
- 社会人の客員講師による講演および企業を訪問する実践的な講義を開講する。
- ICTを活用したオンライン授業により、学習者参加型の双方向授業を実施する。
- 資料配布、課題提出および質疑応答ならびにオンデマンド授業を支援するために学習支援システムを活用する。

教育評価

- 授業科目の達成度評価は、シラバスに明示した到達目標、成績評価の基準と成績評価方法にしたがって、定期試験やレポート、小テスト、実技および発表や報告、質疑などを多面的に組み合わせて行う。
- 教育評価は、教育課程レベルについてのアセスメントプランにしたがって、実施する。

経営学科の教育方針

教育目的（流通経済大学・学則・第4条の2）

経営学科では、経営学全般の基礎的理論の修得をはかり、さらに実践的教育をほどこすことを通して現場の多様な課題に対応できるスペシャリストの養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学科では、「経営学全般の基礎的理論の修得をはかり、さらに実践的教育をほどこすことを通して現場の多様な課題に対応できるスペシャリストの養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や技能、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与します。

【ゆたかな教養】

DP1-1：人文・思想、地域・歴史、社会、自然、健康および外国語に関する幅広い教養を学び、持続可能な社会で活用できる見識と能力を身に付けている。

DP1-2：就職や仕事、家庭、趣味などを含めた人生全体を形成するための知識や方法、資格を身に付けている。

【知識と技能】

DP2-1：起業・マネジメント、流通・マーケティング、会計・ファイナンスの各分野からなる経営学に関する幅広い知識と技能を理解し、それらを実践できる能力を身に付けている。

DP2-2：経営に関する幅広い知識と技能を営利または非営利の組織活動に適用できる能力を有している。

【問題発見と解決力】

DP3：多様化する企業の経営課題を発見し、データを収集・分析したうえで、経営課題を解決するような提案を行うことができる。

【コミュニケーション力と社会貢献力】

DP4：多様な価値観をもつステークホルダーと積極的に意思疎通のできるコミュニケーション力、ならびに多様な人々と協力し、持続可能な社会に貢献する意欲と態度を身に付けている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような教育内容および教育方法に基づき教育課程表カリキュラムを体系的に編成・実施するとともに、教育評価を行います。

教育内容

CP1：グローバルに活躍できる人材の育成に向け、コミュニケーション力の向上を念頭に置いた外国語科目を配置する。（DP1-1）

- CP2：広く社会に貢献できる教養豊かで視野の広い人材の育成に向け、人文科学・社会科学・自然科学に対する理解を深める教養科目を配置する。(DP1-1)
- CP3：生涯学習のための知識と自己実現に向けた能動的な姿勢を育成するキャリア科目を配置する。(DP1-2)
- CP4：教員免許を取得するための教職科目を配置する。(DP1-2)
- CP5：経営学に関する基本的な概念や理論を修得する専門必修科目を配置する。(DP2-1)
- CP6：経営学を構成する起業・マネジメント、流通・マーケティング、会計・ファイナンスの各分野の基礎的な知識と技能を修得する専門基礎科目を配置する。(DP2-1、DP2-2、DP3、DP4)
- CP7：経営学を構成する起業・マネジメント、流通・マーケティング、会計・ファイナンスの各分野の発展的な知識と技能を修得する専門発展科目を配置する。(DP2-1、DP2-2、DP3)
- CP8：データサイエンス力を持つ人材の育成の基礎となる情報科目を配置する。(DP1-1、DP3)
- CP9：コミュニケーション力および課題発見・解決能力を育成するための演習（ゼミ）と卒業研究を配置する。(DP4)

教育方法

- 各学年に必修科目として演習（ゼミ）を開設し、アクティブ・ラーニングを通じ、学生の能力・資質に応じた少人数教育を実施する。
- データサイエンス力を修得するために、コンピュータを活用する実習科目を開講する。
- ノートパソコンを携帯し、コンピュータ実習のみならず、講義科目および予習・復習で活用する。
- 社会人の客員講師による講演および企業を訪問する実践的な講義を開講する。
- ICTを活用したオンライン授業により、学習者参加型の双方向授業を実施する。
- 資料配布、課題提出および質疑応答ならびにオンデマンド授業を支援するために学習支援システムを活用する。

教育評価

- 授業科目の達成度評価は、シラバスに明示した到達目標、成績評価の基準と成績評価方法にしたがって、定期試験やレポート、小テスト、実技および発表や報告、質疑などを多面的に組み合わせて行う。
- 教育評価は、教育課程レベルについてのアセスメントプランにしたがって、実施する。

教育課程表

教育課程表の見方

教育課程表には、各学科で設定されている全ての授業科目、履修学年・学期、必要単位数等の一覧が掲載されています。科目選択や卒業要件なども記載されていますので、「卒業に必要な単位数」および別紙「カリキュラムマップ」とともによく読んで、科目を履修してください。

教育課程表は学科、入学年度によって異なりますので、自分の所属する学科、入学年度に該当する教育課程表を参照してください。また、外国人留学生は、外国人留学生を対象とした説明もよく読んでください。

科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目などに分類されます。

- 1) 必修科目とは、定められた配当年次において必ず履修しなければならない授業科目です。
- 2) 選択必修科目は指定された単位数を複数の授業科目の中から選択して、履修する授業科目のことです。
- 3) 選択科目は自由に選択して履修できる授業科目です。単位数に関する規定はありません。
- 4) 自由科目は成績表には記載されますが、卒業単位には算入されない科目です。

記号の説明

- ◎：必修科目です。履修しなければならない学年が指定されています。単位が未修得の場合は、翌年度以降に履修しなければなりません。
- ：選択必修科目です。
- ◆：選択必修科目です。履修しなければならない学年が指定されています。単位が未修得の場合は、翌年度以降に履修しなければなりません。
- ：選択必修科目です。履修することができる学年/学期が指定されています。記号のある学年以外では履修できません。
- ：選択科目です。
- ◎：自由科目です。

記号がある欄の学年は履修できる最初の学年です。この記号のある学年以降の学年でも履修することができます。

春学期または秋学期のいずれの学期に開講されるかについては、時間割で確認してください。

経済学科 教育課程表

1. 基本科目

(1) 必修科目 22 単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
必修科目	演習		1年演習	4	○				
			2年演習	4		○			
			3年演習	4			○		
			4年演習	4				○	
	卒論		卒業論文	2				○	
	情報		情報リテラシー演習	2	○				
データリテラシー演習			2	○					

2. 外国語科目

(1) 必修科目 外国人留学生を除く学生は 6 単位、外国人留学生は 8 単位

外国人留学生を除く学生は英語、外国人留学生は日本語を履修します。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考	
必修科目	外国語	英語	Comprehensive English 初級 I	1	○					
			Comprehensive English 初級 II	1	○					
			Introduction to TOEIC I	1	○					
			Introduction to TOEIC II	1	○					
			English Communication 初級 I	1		○				
			English Communication 初級 II	1		○				
		日本語	(外) 日本語 A I	1	○					留学生履修科目
			(外) 日本語 A II	1	○					留学生履修科目
			(外) 日本語 B I	1	○					留学生履修科目
			(外) 日本語 B II	1	○					留学生履修科目
	(外) 日本語 C I		1		○				留学生履修科目	
	(外) 日本語 C II		1		○				留学生履修科目	
	(外) 日本語 D I		1		○				留学生履修科目	
	(外) 日本語 D II		1		○				留学生履修科目	

(2) 選択必修科目 外国人留学生を除く学生は 2 単位、外国人留学生は履修することができません。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択必修科目	外国語	仏語	初級フランス語 I	1	◆				
			初級フランス語 II	1	◆				
		独語	初級ドイツ語 I	1	◆				
			初級ドイツ語 II	1	◆				
		西語	初級スペイン語 I	1	◆				
			初級スペイン語 II	1	◆				
		葡語	初級ポルトガル語 I	1	◆				
			初級ポルトガル語 II	1	◆				
		中語	初級中国語 I	1	◆				
			初級中国語 II	1	◆				
		韓語	初級韓国語 I	1	◆				
			初級韓国語 II	1	◆				

(3) 選択科目

2 学年以上で履修できる授業は、選択必修科目の外国語または選択科目での初級科目を終えた者に限ります。

また、選択必修科目で履修した外国語と同じ語学で、初級科目を履修することはできません。

なお、外国人留学生は、第一言語（あるいは母語）を履修することができません。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考	
選択科目	外国語	仏語	選択フランス語初級 I	1	○					
			選択フランス語初級 II	1	○					
		独語	選択ドイツ語初級 I	1	○					
			選択ドイツ語初級 II	1	○					
		西語	選択スペイン語初級 I	1	○					
			選択スペイン語初級 II	1	○					
		葡語	選択ポルトガル語初級 I	1	○					
			選択ポルトガル語初級 II	1	○					
		中語	選択中国語初級 I	1	○					
			選択中国語初級 II	1	○					
		韓語	選択韓国語初級 I	1	○					
			選択韓国語初級 II	1	○					
		英語	(外) Comprehensive English 初級 I	1	○					留学生履修科目
			(外) Comprehensive English 初級 II	1	○					留学生履修科目
			Comprehensive English 中級 I	1		○				
			Comprehensive English 中級 II	1		○				
			資格英語 I	1		○				
			資格英語 II	1		○				
			メディア英語 I	1		○				
			メディア英語 II	1		○				
			English Writing I	1		○				
			English Writing II	1		○				
			English Reading I	1		○				
			English Reading II	1		○				
			English Communication 中級 I	1				○		
			English Communication 中級 II	1				○		
		仏語	選択フランス語中級 I	1		○				
			選択フランス語中級 II	1		○				
		独語	選択ドイツ語中級 I	1		○				
			選択ドイツ語中級 II	1		○				
		西語	選択スペイン語中級 I	1		○				
			選択スペイン語中級 II	1		○				
		葡語	選択ポルトガル語中級 I	1		○				
			選択ポルトガル語中級 II	1		○				
		中語	選択中国語中級 I	1		○				
			選択中国語中級 II	1		○				
		韓語	選択韓国語中級 I	1		○				
			選択韓国語中級 II	1		○				
		日語	(外) ビジネス日本語 I	1		○				留学生履修科目
			(外) ビジネス日本語 II	1		○				留学生履修科目

※ (外) の付いている科目は、外国人留学生のみ履修登録できる科目です。

3. 教養科目

(1) 必修科目 2 単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
必修			リベラルアーツ演習	2		◎			

(2) 選択必修科目 24 単位以上

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択必修科目	教養基礎	人文	哲学Ⅰ	2	●				
			哲学Ⅱ	2	●				
			社会倫理学Ⅰ	2	●				
			社会倫理学Ⅱ	2	●				
			宗教学Ⅰ	2	●				
			宗教学Ⅱ	2	●				
			美術論Ⅰ	2	●				
			美術論Ⅱ	2	●				
			言語論Ⅰ	2	●				
			言語論Ⅱ	2	●				
			文章表現法Ⅰ	2	●				
			文章表現法Ⅱ	2	●				
			考古学Ⅰ	2	●				
			考古学Ⅱ	2	●				
			人文地理学Ⅰ	2	●				
			人文地理学Ⅱ	2	●				
			民俗学Ⅰ	2	●				
			民俗学Ⅱ	2	●				
		地域	日本文学Ⅰ	2	●				
			日本文学Ⅱ	2	●				
			外国文学Ⅰ	2	●				
			外国文学Ⅱ	2	●				
			歴史学（日本史）Ⅰ	2	●				
			歴史学（日本史）Ⅱ	2	●				
			歴史学（東洋史）Ⅰ	2	●				
			歴史学（東洋史）Ⅱ	2	●				
	歴史学（西洋史）Ⅰ		2	●					
	歴史学（西洋史）Ⅱ		2	●					
	日本文化論Ⅰ		2	●					
	日本文化論Ⅱ		2	●					
	アジア文化論Ⅰ		2	●					
	アジア文化論Ⅱ		2	●					
	西洋文化論Ⅰ		2	●					
	西洋文化論Ⅱ		2	●					
	イスラム学Ⅰ		2	●					
	イスラム学Ⅱ		2	●					
	(外) 日本事情（文化と生活）		2	●				留学生履修科目	
	(外) 日本の思想		2	●				留学生履修科目	
	(外) 日本の現在	2	●				留学生履修科目		

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
		社会	日本国憲法Ⅰ	2	●				
			日本国憲法Ⅱ	2	●				
			法学Ⅰ	2	●				
			法学Ⅱ	2	●				
			政治学Ⅰ	2	●				
			政治学Ⅱ	2	●				
			社会学Ⅰ	2	●				
			社会学Ⅱ	2	●				
			心理学Ⅰ	2	●				
			心理学Ⅱ	2	●				
			教育学Ⅰ	2	●				
			教育学Ⅱ	2	●				
			ジェンダー学Ⅰ	2	●				
			ジェンダー学Ⅱ	2	●				
			社会環境論Ⅰ	2	●				
			社会環境論Ⅱ	2	●				
		自然	数学Ⅰ	2	●				
			数学Ⅱ	2	●				
			地球科学Ⅰ	2	●				
			地球科学Ⅱ	2	●				
			物質科学Ⅰ	2	●				
			物質科学Ⅱ	2	●				
			生命科学Ⅰ	2	●				
			生命科学Ⅱ	2	●				
			生態学Ⅰ	2	●				
			生態学Ⅱ	2	●				
			自然地理学Ⅰ	2	●				
			自然地理学Ⅱ	2	●				
		スポーツ・健康	自然環境論Ⅰ	2	●				
			自然環境論Ⅱ	2	●				
			スポーツ科学Ⅰ	2	●				
			スポーツ科学Ⅱ	2	●				
			健康科学論Ⅰ	2	●				
			健康科学論Ⅱ	2	●				
			選択スポーツトレーニング実技Ⅰ	1	●				
			選択スポーツトレーニング実技Ⅱ	1	●				
生涯スポーツの理論と実技	2	●							

※（外）の付いている科目は、外国人留学生のみ履修登録できる科目です。

4. キャリア科目

(1) 必修科目 2単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
必修			キャリアデザインⅠ	2	◎				

(2) 選択必修科目 2単位以上

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択必修			キャリアデザインⅡ	2		●			
			インターンシップ	2		●			
			キャリアカウンセリング	2		●			
			職業選択論	2			●		
			(外) 日本企業論	2			●		留学生履修科目

(3) 選択科目

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
			RKU実践	1		○			認定科目
			海外研修	2	○				認定科目
			災害ボランティアⅠ	1	○				認定科目
			災害ボランティアⅡ	1	○				認定科目
			インターンシップ(海外)	2	○				認定科目
			キャリア基礎(言語)	1	○				認定科目
			キャリア基礎(計算)	1	○				認定科目
			キャリア発展(文章)	1	○				認定科目
			キャリア発展(数理)	1	○				認定科目

※認定科目については、「21. 単位の認定の(3)キャリア科目の単位認定」に詳しい説明があります。

5. 専門科目

(1) 必修科目 4 単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
必修			基礎ミクロ経済学	2	◎				
			基礎マクロ経済学	2	◎				

(2) 選択必修科目 40 単位以上 (専門基礎 32 単位以上、専門発展 8 単位以上)

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択必修	専門基礎		資本主義経済論Ⅰ	2	●				
			資本主義経済論Ⅱ	2	●				
			日本経済史Ⅰ	2	●				
			日本経済史Ⅱ	2	●				
			西洋経済史Ⅰ	2	●				
			西洋経済史Ⅱ	2	●				
			統計学概論Ⅰ	2	●				
			統計学概論Ⅱ	2	●				
			ミクロ経済学Ⅰ	2		●			
			ミクロ経済学Ⅱ	2		●			
			マクロ経済学Ⅰ	2		●			
			マクロ経済学Ⅱ	2		●			
			交通論Ⅰ	2		●			
			交通論Ⅱ	2		●			
			産業組織論Ⅰ	2		●			
			産業組織論Ⅱ	2		●			
			労働経済論Ⅰ	2		●			
			労働経済論Ⅱ	2		●			
			金融論Ⅰ	2		●			
			金融論Ⅱ	2		●			
			情報経済論Ⅰ	2				●	
			情報経済論Ⅱ	2				●	
			財政学Ⅰ	2			●		
			財政学Ⅱ	2			●		
			社会保障論Ⅰ	2			●		
			社会保障論Ⅱ	2			●		
			地域経済論Ⅰ	2					●
			地域経済論Ⅱ	2					●
			国際経済論Ⅰ	2			●		
			国際経済論Ⅱ	2			●		
			日本経済論Ⅰ	2			●		
			日本経済論Ⅱ	2			●		
			経済学史Ⅰ	2					●
			経済学史Ⅱ	2					●
			計量経済学	2					●
			環境経済論Ⅰ	2			●		●
			環境経済論Ⅱ	2			●		●
			経済地理学Ⅰ	2			●		
			経済地理学Ⅱ	2			●		
			公共経済学Ⅰ	2			●		
公共経済学Ⅱ	2			●					
経済政策論Ⅰ	2					●			
経済政策論Ⅱ	2					●			

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
			地方財政論	2			●		
			経済発展論Ⅰ	2			●		
			経済発展論Ⅱ	2			●		
			食料・農業経済学Ⅰ	2			●		
			食料・農業経済学Ⅱ	2			●		
	専門発展		経営学総論Ⅰ	2	●				
			経営学総論Ⅱ	2	●				
			簿記論Ⅰ	2	●				
			簿記論Ⅱ	2	●				
			会計学Ⅰ	2		●			
			会計学Ⅱ	2		●			
			経営データ演習	2		●			
			経済データ演習	2		●			
			ビジネスプレゼンテーションⅠ	2			●		
			ビジネスプレゼンテーションⅡ	2			●		
			ベンチャーファイナンス	2			●		
			リスクマネジメントⅠ	2			●		
			リスクマネジメントⅡ	2			●		
			企業論Ⅰ	2			●		
			企業論Ⅱ	2			●		
			行動経済学	2			●		
			経済学特殊講義	2			●		
			国際金融論Ⅰ	2			●		
			国際金融論Ⅱ	2			●		
			消費者行動論Ⅰ	2			●		
			消費者行動論Ⅱ	2			●		
			証券市場論	2			●		
			NX（日本通運）寄付講座Ⅰ	2		●			
			NX（日本通運）寄付講座Ⅱ	2		●			
			全国通運連盟寄付講座	2		●			
			野村証券寄付講座	2		●			
			金融リテラシー基礎	2		●			
			マーケティング論Ⅰ	2		●			
			マーケティング論Ⅱ	2		●			
			流通論Ⅰ	2		●			
			流通論Ⅱ	2		●			
			ロジスティクス概論Ⅰ	2	●				
			ロジスティクス概論Ⅱ	2	●				
			公共法務特殊講義（行政職）Ⅰ	2			●		
			公共法務特殊講義（行政職）Ⅱ	2			●		
			ロジスティクス実践講座	2			●		
			デジタルマーケティング実践講座	2		●			
			IoT ロジスティクス実践講座	2			●		
			地域ビジネス実践講座	2			●		

(3) 選択科目

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目	関連科目	スポーツ健康科学関連科目	コーチング論	2		○			
			スポーツとメディア	2			○		
			スポーツと国際協力	2				○	
			スポーツと政治	2			○		
			スポーツと文化	2		○			
			スポーツと法	2		○			
			スポーツマネジメント論	2		○			
			スポーツ社会学	2		○			
			スポーツ心理学	2		○			
		経営学関連科目	中級簿記論Ⅰ	2	○				
			中級簿記論Ⅱ	2	○				
			Eビジネス論Ⅰ	2		○			
			Eビジネス論Ⅱ	2		○			
			経営財務論Ⅰ	2		○			
			経営財務論Ⅱ	2		○			
			経営情報システム論	2		○			
			経営情報論	2		○			
			原価計算論Ⅰ	2		○			
			原価計算論Ⅱ	2		○			
			事業戦略論	2		○			
			組織戦略論	2		○			
			事業創造論Ⅰ	2		○			
			事業創造論Ⅱ	2		○			
			人的資源管理論Ⅰ	2		○			
			人的資源管理論Ⅱ	2		○			
			流通政策論Ⅰ	2		○			
			流通政策論Ⅱ	2		○			
			財務会計論Ⅰ	2		○			
			財務会計論Ⅱ	2		○			
			広告論Ⅰ	2				○	
			広告論Ⅱ	2				○	
			社会学関連科目	家族社会学	2		○		
		観光心理学		2		○			
		公的扶助論		2		○			
		産業社会学		2		○			
		社会心理学		2		○			
		社会福祉原論Ⅰ		2		○			
		社会福祉原論Ⅱ		2		○			
		地域社会学		2		○			
		地域福祉論Ⅰ		2		○			
		地域福祉論Ⅱ		2		○			
		ビジネスデータベース演習		2	○				
		ソーシャルメディア演習		2	○				
		法学関連科目		刑法（総論）Ⅰ	2		○		
			刑法（総論）Ⅱ	2		○			
			経済法Ⅰ	2				○	
			経済法Ⅱ	2				○	
			商法（会社法）Ⅰ	2		○			
			商法（会社法）Ⅱ	2		○			
			商法（総則・商行為法）	2		○			
			商法（手形・小切手法）	2		○			
			商法（保険法）	2		○			
労働法Ⅰ	2					○			
労働法Ⅱ	2					○			

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
			民法1（総則）	2		○			
			民法2（物権）	2		○			
			民法3（債権各論）Ⅰ	2		○			
			民法3（債権各論）Ⅱ	2		○			
			民法4（債権総論）	2			○		
			民法5（担保法）	2			○		
			金融取引法	2			○		
			国際関係論Ⅰ	2			○		
			国際関係論Ⅱ	2			○		
		流通情報学関連科目	情報学概論Ⅰ	2	○				
			情報学概論Ⅱ	2	○				
			グローバルロジスティクス論Ⅰ	2		○			
			グローバルロジスティクス論Ⅱ	2		○			
			ロジスティクスビジネス論Ⅰ	2		○			
			ロジスティクスビジネス論Ⅱ	2		○			
			流通情報システム	2		○			
			ロジスティクスとイノベーション	2		○			

6. 教職科目

教員免許を取得するために必要な科目です。教員免許を取得するためには、表にある科目以外にも履修しなければならないので、別冊「教職課程・履修の手引き」を参照してください。

(1) 選択科目 (卒業単位に算入することができます)

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目	教職		教師論	2	○				
			教育原理	2	○				
			教育心理学	2	○				
			教育社会学概論	2	○				
			教育課程論	2		○			
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		○			
			生徒指導論 (進路指導及びキャリア教育を含む)	2		○			
			教育相談 (カウンセリングを含む)	2		○			
			道徳教育論	2		○			
			教育方法学 (ICT 活用の理論と実践を含む)	2				○	

(2) 自由科目 (卒業単位に算入することができません)

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
自由科目	教職		日本史概説Ⅰ	2	◎				
			日本史概説Ⅱ	2	◎				
			東洋史概説	2	◎				
			西洋史概説	2	◎				
			人文地理学概説	2	◎				
			自然地理学概説	2	◎				
			地誌	2		◎			
			教育史	2	◎				
			特別な支援を要する生徒の理解	2		◎			
			社会科・地歴科教育法	4			◎		
			社会科・公民科教育法	4			◎		
			介護入門	2			◎		
			教育実習事前指導	1				◎	
			教育実習 (中学校)	4					◎
			教育実習 (高等学校)	2					◎
			教職実践演習 (中・高)	2					◎

卒業に必要な単位数

卒業するために必要な単位数は124単位です。必修科目、選択必修科目、選択科目の内訳は下表の通りです。

必修科目	基本科目	22 単位	36 単位 38 単位 (留学生)	
	外国語科目	6 単位 8 単位 (留学生)		
	教養科目	2 単位		
	キャリア科目	2 単位		
	専門科目	4 単位		
選択必修科目	外国語科目	2 単位 0 単位 (留学生)	68 単位以上 66 単位以上 (留学生)	左記を含めて 88 単位以上 86 単位以上 (留学生)
	教養科目	24 単位以上		
	キャリア科目	2 単位以上		
	専門基礎科目	32 単位以上		
	専門発展科目	8 単位以上		
選択科目	外国語科目			
	キャリア科目			
	関連科目			
	教職科目			
合計		124 単位以上		
自由科目	教職科目	卒業単位には含まれません		

経営学科 教育課程表

1. 基本科目

(1) 必修科目 22 単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
必修科目	演習		1年演習	4	◎				
			2年演習	4		◎			
			3年演習	4			◎		
			4年演習	4				◎	
	卒研		卒業研究	2				◎	
	情報		情報リテラシー演習	2	◎				
データリテラシー演習			2	◎					

2. 外国語科目

(1) 必修科目 外国人留学生を除く学生は 6 単位、外国人留学生は 8 単位

外国人留学生を除く学生は英語、外国人留学生は日本語を履修します。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考	
必修科目	外国語	英語	Comprehensive English 初級 I	1	◎					
			Comprehensive English 初級 II	1	◎					
			Introduction to TOEIC I	1	◎					
			Introduction to TOEIC II	1	◎					
			English Communication 初級 I	1		◎				
			English Communication 初級 II	1		◎				
		日本語	(外) 日本語 A I	1	◎					留学生履修科目
			(外) 日本語 A II	1	◎					留学生履修科目
			(外) 日本語 B I	1	◎					留学生履修科目
			(外) 日本語 B II	1	◎					留学生履修科目
			(外) 日本語 C I	1		◎				留学生履修科目
			(外) 日本語 C II	1		◎				留学生履修科目
			(外) 日本語 D I	1		◎				留学生履修科目
			(外) 日本語 D II	1		◎				留学生履修科目

(2) 選択必修科目 外国人留学生を除く学生は 2 単位、外国人留学生は履修することができません。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考	
選択必修科目	外国語	仏語	初級フランス語 I	1	◆					
			初級フランス語 II	1	◆					
		独語	初級ドイツ語 I	1	◆					
			初級ドイツ語 II	1	◆					
		西語	初級スペイン語 I	1	◆					
			初級スペイン語 II	1	◆					
		葡語	初級ポルトガル語 I	1	◆					
			初級ポルトガル語 II	1	◆					
		中語	初級中国語 I	1	◆					
			初級中国語 II	1	◆					
		韓語	初級韓国語 I	1	◆					
			初級韓国語 II	1	◆					

(3) 選択科目

2 学年以上で履修できる授業は、選択必修科目の外国語または選択科目での初級科目を終えた者に限ります。

また、選択必修科目で履修した外国語と同じ語学で、初級科目を履修することはできません。

なお、外国人留学生は、第一言語（あるいは母語）を履修することができません。

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考	
選択科目	外国語	仏語	選択フランス語初級 I	1	○					
			選択フランス語初級 II	1	○					
		独語	選択ドイツ語初級 I	1	○					
			選択ドイツ語初級 II	1	○					
		西語	選択スペイン語初級 I	1	○					
			選択スペイン語初級 II	1	○					
		葡語	選択ポルトガル語初級 I	1	○					
			選択ポルトガル語初級 II	1	○					
		中語	選択中国語初級 I	1	○					
			選択中国語初級 II	1	○					
		韓語	選択韓国語初級 I	1	○					
			選択韓国語初級 II	1	○					
		英語	(外) Comprehensive English 初級 I	1	○					留学生履修科目
			(外) Comprehensive English 初級 II	1	○					留学生履修科目
			Comprehensive English 中級 I	1		○				
			Comprehensive English 中級 II	1		○				
			資格英語 I	1		○				
			資格英語 II	1		○				
			メディア英語 I	1		○				
			メディア英語 II	1		○				
			English Writing I	1		○				
			English Writing II	1		○				
			English Reading I	1		○				
			English Reading II	1		○				
			English Communication 中級 I	1				○		
		English Communication 中級 II	1				○			
		仏語	選択フランス語中級 I	1		○				
			選択フランス語中級 II	1		○				
		独語	選択ドイツ語中級 I	1		○				
			選択ドイツ語中級 II	1		○				
		西語	選択スペイン語中級 I	1		○				
			選択スペイン語中級 II	1		○				
		葡語	選択ポルトガル語中級 I	1		○				
			選択ポルトガル語中級 II	1		○				
		中語	選択中国語中級 I	1		○				
			選択中国語中級 II	1		○				
		韓語	選択韓国語中級 I	1		○				
			選択韓国語中級 II	1		○				
		日語	(外) ビジネス日本語 I	1		○				留学生履修科目
			(外) ビジネス日本語 II	1		○				留学生履修科目

※ (外) の付いている科目は、外国人留学生のみ履修登録できる科目です。

3. 教養科目

(1) 必修科目 2 単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考
必修			リベラルアーツ演習	2		◎			

(2) 選択必修科目 24 単位以上

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考
選択必修科目	教養基礎	人文	哲学Ⅰ	2	●				
			哲学Ⅱ	2	●				
			社会倫理学Ⅰ	2	●				
			社会倫理学Ⅱ	2	●				
			宗教学Ⅰ	2	●				
			宗教学Ⅱ	2	●				
			美術論Ⅰ	2	●				
			美術論Ⅱ	2	●				
			言語論Ⅰ	2	●				
			言語論Ⅱ	2	●				
			文章表現法Ⅰ	2	●				
			文章表現法Ⅱ	2	●				
			考古学Ⅰ	2	●				
			考古学Ⅱ	2	●				
			人文地理学Ⅰ	2	●				
			人文地理学Ⅱ	2	●				
		民俗学Ⅰ	2	●					
		民俗学Ⅱ	2	●					
		地域	日本文学Ⅰ	2	●				
			日本文学Ⅱ	2	●				
			外国文学Ⅰ	2	●				
			外国文学Ⅱ	2	●				
			歴史学（日本史）Ⅰ	2	●				
			歴史学（日本史）Ⅱ	2	●				
			歴史学（東洋史）Ⅰ	2	●				
			歴史学（東洋史）Ⅱ	2	●				
			歴史学（西洋史）Ⅰ	2	●				
			歴史学（西洋史）Ⅱ	2	●				
			日本文化論Ⅰ	2	●				
			日本文化論Ⅱ	2	●				
			アジア文化論Ⅰ	2	●				
			アジア文化論Ⅱ	2	●				
			西洋文化論Ⅰ	2	●				
			西洋文化論Ⅱ	2	●				
			イスラム学Ⅰ	2	●				
			イスラム学Ⅱ	2	●				
			(外) 日本事情（文化と生活）	2	●				留学生履修科目
			(外) 日本の思想	2	●				留学生履修科目
			(外) 日本の現在	2	●				留学生履修科目
		社会	日本国憲法Ⅰ	2	●				
			日本国憲法Ⅱ	2	●				
			法学Ⅰ	2	●				
			法学Ⅱ	2	●				

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
			政治学Ⅰ	2	●				
			政治学Ⅱ	2	●				
			経済学Ⅰ	2	●				
			経済学Ⅱ	2	●				
			社会学Ⅰ	2	●				
			社会学Ⅱ	2	●				
			心理学Ⅰ	2	●				
			心理学Ⅱ	2	●				
			教育学Ⅰ	2	●				
			教育学Ⅱ	2	●				
			ジェンダー学Ⅰ	2	●				
			ジェンダー学Ⅱ	2	●				
			社会環境論Ⅰ	2	●				
			社会環境論Ⅱ	2	●				
		自然	数学Ⅰ	2	●				
			数学Ⅱ	2	●				
			地球科学Ⅰ	2	●				
			地球科学Ⅱ	2	●				
			物質科学Ⅰ	2	●				
			物質科学Ⅱ	2	●				
			生命科学Ⅰ	2	●				
			生命科学Ⅱ	2	●				
			生態学Ⅰ	2	●				
			生態学Ⅱ	2	●				
			自然地理学Ⅰ	2	●				
			自然地理学Ⅱ	2	●				
			自然環境論Ⅰ	2	●				
			自然環境論Ⅱ	2	●				
		スポーツ・健康	スポーツ科学Ⅰ	2	●				
			スポーツ科学Ⅱ	2	●				
			健康科学論Ⅰ	2	●				
			健康科学論Ⅱ	2	●				
			選択スポーツトレーニング実技Ⅰ	1	●				
			選択スポーツトレーニング実技Ⅱ	1	●				
			生涯スポーツの理論と実技	2	●				

※（外）の付いている科目は、外国人留学生のみ履修登録できる科目です。

4. キャリア科目

(1) 必修科目 2単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
必修			キャリアデザインⅠ	2	◎				

(2) 選択必修科目 2単位以上

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択必修			キャリアデザインⅡ	2		●			
			インターンシップ	2		●			
			キャリアカウンセリング	2		●			
			職業選択論	2			●		
			(外) 日本企業論	2			●		留学生履修科目

(3) 選択科目

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目			RKU実践	1		○			認定科目
			海外研修	2	○				認定科目
			災害ボランティアⅠ	1	○				認定科目
			災害ボランティアⅡ	1	○				認定科目
			インターンシップ(海外)	2	○				認定科目
			キャリア基礎(言語)	1	○				認定科目
			キャリア基礎(計算)	1	○				認定科目
			キャリア発展(文章)	1	○				認定科目
			キャリア発展(数理)	1	○				認定科目

※認定科目については、「21. 単位の認定の(3)キャリア科目の単位認定」に詳しい説明があります。

5. 専門科目

(1) 必修科目 6 単位

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考
必修			経営入門	2	○				
			経営学総論Ⅰ	2	○				
			経営学総論Ⅱ	2	○				

(2) 選択必修科目 46 単位以上 (専門共通 4 単位以上、専門基礎 32 単位以上、専門発展 10 単位以上)

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	備考	
選択必修科目	専門共通		会計学Ⅰ	2		●				
			会計学Ⅱ	2		●				
			流通論Ⅰ	2		●				
			流通論Ⅱ	2		●				
	専門基礎			簿記論Ⅰ	2	●				
				簿記論Ⅱ	2	●				
				E ビジネス論Ⅰ	2	●				
				E ビジネス論Ⅱ	2	●				
				ビジネスデータベース演習	2	●				
				ソーシャルメディア演習	2	●				
				マーケティング論Ⅰ	2		●			
				マーケティング論Ⅱ	2		●			
				ブランド論Ⅰ	2		●			
				ブランド論Ⅱ	2		●			
				経営財務論Ⅰ	2		●			
				経営財務論Ⅱ	2		●			
				経営情報システム論	2		●			
				経営情報論	2		●			
				人的資源管理論Ⅰ	2		●			
				人的資源管理論Ⅱ	2		●			
				事業創造論Ⅰ	2		●			
				事業創造論Ⅱ	2		●			
				事業戦略論	2		●			
				組織戦略論	2		●			
				流通政策論Ⅰ	2		●			
				流通政策論Ⅱ	2		●			
				企業論Ⅰ	2		●			
				企業論Ⅱ	2		●			
				起業家育成講座Ⅰ	2		●			
				起業家育成講座Ⅱ	2		●			
				原価計算論Ⅰ	2		●			
				原価計算論Ⅱ	2		●			
				ビジネスプレゼンテーションⅠ	2		●			
				ビジネスプレゼンテーションⅡ	2		●			
				消費者行動論Ⅰ	2		●			
				消費者行動論Ⅱ	2		●			
				商法 (会社法) Ⅰ	2		●			
				商法 (会社法) Ⅱ	2		●			
				中級簿記論Ⅰ	2		●			
				中級簿記論Ⅱ	2		●			

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
	専門発展		上級簿記論Ⅰ	2		●			
		上級簿記論Ⅱ	2		●				
		統計学概論Ⅰ	2	●					
		統計学概論Ⅱ	2	●					
		経済データ演習	2	●					
		経営データ演習	2	●					
		経営史Ⅰ	2		●				
		経営史Ⅱ	2		●				
		管理会計論Ⅰ	2		●				
		管理会計論Ⅱ	2		●				
		広告論Ⅰ	2		●				
		広告論Ⅱ	2		●				
		ベンチャーファイナンス	2		●				
		証券市場論	2		●				
		リスクマネジメントⅠ	2		●				
		リスクマネジメントⅡ	2		●				
		金融論Ⅰ	2		●				
		金融論Ⅱ	2		●				
		国際金融論Ⅰ	2		●				
		国際金融論Ⅱ	2		●				
		商法（総則・商行為法）	2				●		
		商法（手形・小切手法）	2				●		
		税法（法人税法）	2		●				
		社会的企業論	2		●				
		ロジスティクス実践講座	2				●		
		デジタルマーケティング実践講座	2		●				
		IoT ロジスティクス実践講座	2				●		
		地域ビジネス実践講座	2				●		
		財務会計論Ⅰ	2				●		
		財務会計論Ⅱ	2				●		

(3) 選択科目

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目	専門関連科目	スポーツ健康科学関連科目	コーチング論	2		○			
			スポーツとメディア	2		○			
			スポーツと国際協力	2		○			
			スポーツと政治	2		○			
			スポーツと文化	2		○			
			スポーツと法	2		○			
			スポーツマネジメント論	2		○			
			スポーツ社会学	2		○			
			スポーツ心理学	2		○			
		経済学関連科目	日本経済史Ⅰ	2	○				
			日本経済史Ⅱ	2	○				
			西洋経済史Ⅰ	2	○				
			西洋経済史Ⅱ	2	○				
			経済地理学Ⅰ	2		○			
			経済地理学Ⅱ	2		○			
			ミクロ経済学Ⅰ	2		○			
			ミクロ経済学Ⅱ	2		○			
			マクロ経済学Ⅰ	2		○			
			マクロ経済学Ⅱ	2		○			
			産業組織論Ⅰ	2		○			
			産業組織論Ⅱ	2		○			
			財政学Ⅰ	2		○			
			財政学Ⅱ	2		○			
			地域経済論Ⅰ	2		○			
			地域経済論Ⅱ	2		○			
			国際経済論Ⅰ	2		○			
			国際経済論Ⅱ	2		○			
			交通論Ⅰ	2		○			
			交通論Ⅱ	2		○			
			社会保障論Ⅰ	2		○			
			社会保障論Ⅱ	2		○			
			労働経済論Ⅰ	2		○			
			労働経済論Ⅱ	2		○			
			経済発展論Ⅰ	2		○			
			経済発展論Ⅱ	2		○			
			情報経済論Ⅰ	2		○			
			情報経済論Ⅱ	2		○			
			日本経済論Ⅰ	2				○	
			日本経済論Ⅱ	2				○	
			野村証券寄付講座	2			○		
		金融リテラシー基礎	2			○			
		社会学関連科目	行動経済学	2		○			
			家族社会学	2		○			
観光心理学	2			○					
産業社会学	2			○					
社会心理学	2			○					
文化人類学	2			○					

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
		法学関連科目	経済法Ⅰ	2		○			
			経済法Ⅱ	2		○			
			労働法Ⅰ	2		○			
			労働法Ⅱ	2		○			
			民法1（総則）	2		○			
			民法2（物権）	2		○			
			民法3（債権各論）Ⅰ	2		○			
			民法3（債権各論）Ⅱ	2		○			
			知的財産法	2				○	
		流通情報学関連科目	ロジスティクス概論Ⅰ	2	○				
			ロジスティクス概論Ⅱ	2	○				
			情報学概論Ⅰ	2	○				
			情報学概論Ⅱ	2	○				
			グローバルロジスティクス論Ⅰ	2		○			
			グローバルロジスティクス論Ⅱ	2		○			
			ロジスティクスシステム論Ⅰ	2			○		
			ロジスティクスシステム論Ⅱ	2			○		
			ロジスティクスビジネス論Ⅰ	2		○			
			ロジスティクスビジネス論Ⅱ	2		○			
			流通情報システム	2		○			
			ロジスティクスとイノベーション	2		○			
			NX（日本通運）寄付講座Ⅰ	2		○			
			NX（日本通運）寄付講座Ⅱ	2		○			
			全国通運連盟寄付講座	2		○			

6. 教職科目

教員免許を取得するために必要な科目です。教員免許を取得するためには、表にある科目以外にも履修しなければならないので、別冊「教職課程・履修の手引き」を参照してください。

(1) 選択科目 (卒業単位に算入することができます)

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
選択科目	教職		教師論	2	○				
			教育原理	2	○				
			教育心理学	2	○				
			教育社会学概論	2	○				
			教育課程論	2		○			
			特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		○			
			生徒指導論 (進路指導及びキャリア教育を含む)	2		○			
			教育相談 (カウンセリングを含む)	2		○			
			道德教育論	2		○			
			教育方法学 (ICT 活用の理論と実践を含む)	2				○	

(2) 自由科目 (卒業単位に算入することができません)

大区分	中区分	小区分	科目名	単位	1学年	2学年	3学年	4学年	備考
自由科目	教職		教育史	2	◎				
			特別な支援を要する生徒の理解	2		◎			
			商業科教育法	4			◎		
			教育実習事前指導	1				◎	
			教育実習 (高等学校)	2					◎
教職実践演習 (中・高)	2					◎			

卒業に必要な単位数

卒業するために必要な単位数は 124 単位です。必修科目、選択必修科目、選択科目の内訳は下表の通りです。

必修科目	基本科目	22 単位	38 単位 40 単位 (留学生)	
	外国語科目	6 単位 8 単位 (留学生)		
	教養科目	2 単位		
	キャリア科目	2 単位		
	専門科目	6 単位		
選択必修科目	外国語科目	2 単位 0 単位 (留学生)	74 単位以上 72 単位以上 (留学生)	左記を含めて 86 単位以上 84 単位以上 (留学生)
	教養科目	24 単位以上		
	キャリア科目	2 単位以上		
	専門共通科目	4 単位以上		
	専門基礎科目	32 単位以上		
	専門発展科目	10 単位以上		
選択科目	外国語科目			
	キャリア科目			
	専門関連科目			
	教職科目			
合計		124 単位以上		
自由科目	教職科目	卒業単位には含まれません		

履修の手引

1. セメスター制

本学ではセメスター制を採用しています。セメスター制とは、学年を春学期と秋学期とに分け、基本的にはそれぞれの学期（セメスター）で単位を修得し、卒業にいたる制度です。

2. 単位制

単位制とは、「教育課程表」に記載されている科目を履修し、科目ごとに定められている単位を修得して、原則として4年間のうちに、卒業に必要な単位を修得する制度です。

(1) 単位の計算方法

単位は講義科目を基本として1単位あたり45時間の学修を必要とする内容で構成されています。2単位の授業科目は90時間の学修時間が必要という意味です。この内、1/3は授業時間内の学修に、2/3が授業時間外の予習・復習に当てられています。単位数の多い科目は予習・復習にそれだけ多くの学修時間をかけなければなりません。

(2) 科目の単位数

科目の単位数は1単位、2単位、4単位のいずれかであり、「教育課程表」に記載されています。授業は基本的に週1回行われ、その授業形態によって、下記のように単位数が決められています。

- 1) 演習：通年の30回の授業で4単位
- 2) 外国語科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位
- 3) 体育科目・スポーツ実技科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位
- 4) 情報科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位
- 5) 講義科目：各学期（春、秋）15回の授業で2単位
- 6) 実習科目：各学期（春、秋）15回の授業で1単位または2単位

3. 最高履修単位数

年間の最高履修単位数は1・2学年が44単位、3・4学年が49単位です。

各学期の最高履修単位数は、1・2学年では26単位、3・4学年では28単位です。ただし、1・2学年では年間の最高履修単位数は44単位ですので、片方の学期で26単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は18単位となります。3・4学年では年間の最高履修単位数は49単位ですので、片方の学期で28単位を履修した場合には、もう片方の学期での最高履修単位数は21単位となります。なお、通年で4単位の科目は春学期2単位、秋学期2単位の履修とみなします。

3学年および4学年で前年度までの平均GPAが3.5以上の場合、教務課に申請することにより、年間の最高履修単位数を52単位、各学期の最高履修単位数は30単位とすることができます。

4. 3学年進級に必要な単位数

2学年終了時において、1年演習・2年演習を含め、40単位に達している場合に3学年への進級を認めます。

- ・ 「教育課程表」以外の科目で修得した単位は3学年進級に必要な単位数には含まれません。
 - ・ 2年演習の単位を修得できなかった場合でも、1年演習の単位を修得した上で、40単位を満たしていれば、3学年へ進級できます。
- なお、卒業までに2年演習の単位を修得しなければなりません。

5. 学籍

(1) 卒業

1) 修業年限

4年以上在学し、卒業に必要な所定の単位を修得した学生は、「卒業」となります。卒業に必要な所定の単位が修得できずに4年の在学年数を超えて在籍する学生は、卒業に必要な単位を修得した学期で卒業となります。なお、卒業に必要な単位を満たした上で在学することはできません。

2) 学位

卒業した学生には、次の区分に従い「卒業証書・学位記」を授与します。

学部	学科	学位
経済学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
社会学部 共創社会学部	社会学科 地域人間科学科	学士（社会学）
	国際文化ツーリズム学科	学士（社会学）
流通情報学部	流通情報学科	学士（流通情報学）
法学部	法律学科	学士（法学）
	自治行政学科	学士（法学）
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	学士（スポーツ健康科学）
	スポーツコミュニケーション学科	学士（スポーツ健康科学）

3) 卒業発表

卒業発表は、毎年3月および9月に行います。

4) 卒業式

卒業が決定した学生は、卒業式に出席し、学生証と引き換えに「卒業証書・学位記」を受け取ってください。

(2) 休学・復学

1) 休学

病気、留学、その他の理由で引続き2ヵ月以上出席することができない場合は、休学することができます。保証人連署の休学届および診断書等を提出してください。休学については、学生生活課に相談してください。

2) 復学

復学する場合は、休学期間終了日までに復学届および理由書を提出してください。また、休学期間中に復学することもできます。復学については、学生生活課と相談してください。

3) 休学による履修中断・履修再開

留学等により秋学期および翌年度春学期を続けて休学する場合、休学を開始する年度の春学期および翌年度秋学期を通算して、履修済みの通年授業の単位を取得することが可能になります。履修中断および履修再開の両方の申請が必要になります。休学による履修中断・履修再開については、教務課に相談してください。

(3) 転学部・転学科

現在所属する学部・学科から他の学部・学科に転学部・転学科することができます。学部・学科の定員に余裕がある場合で、1年次または2年次の取得単位数等の所定の条件を満たすことが必要になります。転学部・転学科については、教務課に相談してください。

(4) 留学

在籍しながら外国の大学等に留学をすることができます。留学できる期間は原則として1年以内です。1年以内の協定のある大学への「交換留学」、2カ月以上1年以内で留学する「海外留学」、2週間以上2カ月未満の夏季、冬季及び春季の休業期間中に留学する「異文化研修」があります。留学については、国際交流センターに相談してください。

(5) 退学

病気等やむを得ない事情により退学する場合は、保証人連署の退学届を提出してください。退学については、学生生活課に相談してください。

6. 科目の履修

科目の履修に際しては、教室で授業を受けるだけでなく、シラバスや教室での指導に基づいて自主的に予習・復習をしてください。また、指定された参考図書などについても学習してください。

(1) 科目の区分

各学年の学生が履修すべき科目は、「教育課程表」に記載されています。

必修科目：非常に重要度の高い科目であり、指定された学年に必ず履修しなければならない科目です。

指定された学年で修得できなかった場合には、原則として次年度に必ず履修しなければなりません。

選択必修科目：必修科目に次いで重要度の高い科目であり、教育課程表の区分欄に記されている条件を満たすように科目を選択して、履修しなければならない科目です。

選択科目：必ず履修しなければならない科目ではなく、自由に選択して履修することができる科目です。修得した単位は卒業単位に算入されます。

自由科目：成績表には記載されますが、修得した単位が卒業単位には算入されない科目です。また、各学年の最高履修単位数にも算入されません。ただし、スポーツ健康科学部の開講科目を他学部から自由科目として履修することはできません。

(2) 履修登録（事前登録）

科目の履修にあたっては、事前に登録をしなければなりません。この登録が完了した時点で、科目の履修が確定し、各自の時間割が決定します。ただし、一部、登録が必要でない科目もあります。

- 1) 各科目の時間割、担当教員等については、3月に発表します。履修ガイダンスに出席し、各自であらかじめ履修したい科目を決めておき、定められた期間に履修登録を行ってください。
- 2) 指定された期間に履修登録手続を怠った場合や誤った登録をした場合、その年度の履修は無効となります。
- 3) 履修登録は、~~Ring (RKU Interchange for Groups)~~ **RKU 学務情報システム（以下、「Ring」という）**で行います。

7. 単位の修得

- 1) 履修登録した科目に対してのみ単位の修得が認められます。未登録科目を履修しても単位は修得できません。ただし、別に定めるところにより、単位の修得を認めることがあります。
- 2) 履修登録した科目について、「S・A・B・C」いずれかの成績評価が付与された場合に、当該科目の単位の修得が認められます。また、単位が認定された場合には、「R」が付与され、単位の修得が認められます。なお、「D」（不合格）または「/」（評価不能）が付与された場合には、当該科目の単位の修得は認められません。
- 3) 単位は学期（春・秋）ごとに与えられます。通年科目の単位は春学期および秋学期の成績を総合して付与されます。通年科目は片方の学期だけ履修しても単位は修得できません。
- 4) 単位を修得できなかった科目については、再履修してください。ただし、必修科目以外の科目については、別の科目を選択し、履修しても構いません。
- 5) 一度単位を修得した科目（成績の付与された科目）については、再度履修して単位を取り直すことはできません。

8. 授業時間

1 時限目	9 : 00 ~ 10 : 30
2 時限目	10 : 45 ~ 12 : 15
3 時限目	13 : 05 ~ 14 : 35
4 時限目	14 : 50 ~ 16 : 20
5 時限目	16 : 35 ~ 18 : 05
6 時限目	18 : 20 ~ 19 : 50

9. 休講と補講

休講の案内は Ring で行います。休講となった場合には補講が行われます。補講は原則として、当該授業のある曜日の5時限または土曜日の午前・午後（龍ヶ崎キャンパス）、6時限または土曜日の午後（新松戸キャンパス）、またはオンラインにて行われます。補講の詳細については、Ring に掲載します。

10. 出席調査

授業では出席を調査します。出席調査はパソコン・スマートフォン・携帯電話、出席カードや提出物等により行います。インターネットや Wi-Fi に接続できるパソコン・スマートフォン・携帯電話等を準備してください。

11. 災害時の授業

台風や大雪、あるいは地震などにより大きな災害が発生した場合には、電車やバス等の公共交通機関が運行できなくなる事態が予測されます。その場合には、その都度、授業を実施するか否かを発表しますので、各自、以下の方法で確認してください。

- 1) Ring <https://ring.rku.ac.jp/>
- 2) 災害時連絡ダイヤル 0297-64-0009

12. 試験

(1) 定期試験

- 1) 定期の試験として、春学期試験と秋学期試験があります。

春学期試験 7月下旬～8月上旬（約1週間）

秋学期試験 1月下旬～2月上旬（約1週間）

- 2) 試験時間割と注意事項は各試験の1週間前までに Ring に掲示しますので、各自で確認してください。

(2) 試験に関する注意事項

- 1) 学生証は必ず携帯し、試験監督者が見やすい場所（机の上）に常に置いてください。学生証を提示しない者は受験できません。学生証を忘れた者は学生生活課で、一日有効の仮学生証（有料）を発行してもらい受験してください。
- 2) 遅刻は試験開始後 20 分以内に限り認めます。ただし、試験時間は延長しません。
- 3) 試験場からの退場は試験開始後 30 分以内は許可しません。
- 4) 試験中は携帯情報端末等**電子通信機器**（携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ・通信機能付き電子辞書等）の電源を切り、カバン、バッグなどの中に入れておいてください。~~時計・辞書の代わりに~~はできません。
- 5) **時計は、スマートウォッチなど辞書、電卓、ウェアラブル端末等の機能があるもの、およびそれらの機能の有無が判別しづらいものは利用できません。**
- 6) 試験場における行動はすべて試験監督者の指示に従ってください。指示に従わない場合は不正行為となります。
- 7) 試験中に不正行為があった場合には、「試験規則」第8条により処置します。不正行為とは、次のような行為です。
 - ・他の学生の答案を見ること。
 - ・他の学生とコミュニケーション（話、目くばせなど）をとること。
 - ・カンニング・ペーパーを持ち込み、それらを見ること。
 - ・許可されていないコピー、テキストなどを持ち込み、それらを見ること。
 - ・**電子通信機器（携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ・通信機能付き電子辞書等）を触ること。**
 - ・通信機器を用いて外部と連絡をとること。
 - ・あらかじめ机に試験に関する事項を書いておき、それらを見ること。
 - ・本人以外の者が代理で受験をすること。
 - ・他の学生と物品の貸し借りをすること。

- ・答案用紙を教室外に持ち出すこと。
- ・その他、適正な成績評価を妨げる行為を行うこと。

(3) 追試験

定期試験に欠席した場合には、「試験規則」第4条、第5条により、追試験を願い出ることができません。追試験の願い出は欠席した試験が行われた日から起算して7日以内に行わなければなりません。できるだけ早い時期に必要な公的証明書などを添付して、教務課に申し出てください。入院等により登校できない場合には、教務課に電話連絡をして指示を受けてください。

(4) 再試験

再試験は原則として行いません。ただし、卒業該当年次生で、卒業に必要な単位が不足する学生に対して、次の要件をすべて満たす場合に限り、再試験の受験を認めることがあります。

- 1) 卒業に必要な単位数が不足する場合、その不足科目が4科目以内であること。ただし、5年以上在籍した学生の卒業に必要な単位数が不足する場合には、その不足科目が6科目以内であること。
- 2) 卒業年次に履修登録が行われている科目であること。
- 3) 出席不良等の理由で評価不能「/」とされた科目でないこと。
- 4) 本人の申請があること。

(5) レポート提出に関する注意事項

担当教員の指示によりレポートを提出するときは、次の事項に注意してください。

- 1) 指示した期限までに指定場所に提出してください。期限後の提出は無効となります。
- 2) 特別の指示のない限り、A4版を使用してください。最初のページに、科目名、担当教員名、課題、学生番号および氏名を黒色で明記してください。

13. 不正行為

試験、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正をしてはいけません。試験中に不正行為があった場合は「試験規則」第8条により処置します。また、出席調査、提出物、その他の授業の実施に係る行為において不正があった場合は「試験規則」第8条に準じて処置することがあります。

14. 成績評価

- 1) 成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、論文、レポート、口述試験、実技テスト）およびその他担当教員の指定する方法によって評価されます。成績評価方法は、シラバスに記載されています。
- 2) 成績は100点法によって評価され、60点以上を合格とし、下表の基準に従って単位が与えられます。また、単位が認定された場合も単位が与えられます。

合格	「S」90点以上	「A」80～89点	「B」70～79点	「C」60～69点
不合格	「D」59点以下 「/」（評価不能）			
単位認定	「R」			

- 3) 成績表は各学期終了後に交付します。ただし、通年科目はその学年終了後に交付します。
- 4) 成績表は各学期終了後に学生および保証人の Ring にも提示されます。
- 5) 成績に関して質問のある学生は、「成績確認願」を教務課に提出し、その成績の確認を求めることができます。

15. GPA

本学では、GPA（グレード・ポイント・アベレージ：履修科目の成績の平均値）を算出する制度を定めています。GPAは、学生の学習意欲を高めるとともに、本学が掲げる教育の質の保証についての具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的としています。

(1) GPAの算出方法

GPAは、GPA対象授業科目のうち、履修登録した科目についてそれぞれの単位数にグレードポイント（4、3、2、1、0のいずれか）をかけ、その合計ポイントを単位数の総和で割ったものとなります。

(2) グレードポイント

成績評価に対するグレードポイントは下表の通りです。

評価	グレードポイント
S	4
A	3
B	2
C	1
D	0
/	0
R	適用除外

(3) GPA対象授業科目と適用除外科目

適用除外科目を除くすべての授業科目がGPAの対象となります。

以下の科目は適用除外科目です。これらの科目にはグレードポイントが付加されず、修得単位や成績はGPAの計算には使用しません。

1. 教育課程表にある科目に関する単位認定科目
2. 編入学または転入学した際の単位認定科目
3. 本学入学前に修得した単位認定科目
4. 他大学との単位互換等で修得した科目

(4) GPAの活用

GPAは、本学大学院の内部推薦基準、奨学生の採用基準、また学修指導や退学勧告の資料等に利用されます。

16. 他キャンパス受講

原則として週1日に限り、他キャンパスで開講される科目の受講を認めることがあります。他キャンパス受講を希望する学生は、履修登録時に教務課に申請してください。

17. キャンパス変更

所定の要件を満たした場合に限り、所属するキャンパスの変更を認めることがあります。キャンパス変更を希望する学生は、秋学期定期試験期間終了までに教務課へ申請してください。ただし、**地域人間科学科**・国際文化ツーリズム学科・流通情報学科・スポーツ健康科学部は除きます。

18. 演習の履修

基本科目の演習には、1年演習、2年演習、3年演習、4年演習があります。演習の各クラスは通称「ゼミ」とよばれており、原則として全学年・全員がゼミに所属します。

(1) 経済学科

1) 1年演習

1つのゼミを20名程度で編成し、所属するゼミは入学時に指定します。1年演習の未修得者は3学年に進級できません。

2) 2年演習

1つのゼミを20名程度で編成します。2年演習の選択は、1学年の秋学期に行います。各ゼミの指導計画を選択申込の前に発表しますので、それらを熟読の上、自由に選択してください。また、相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員に相談することもできます。ゼミによっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。第1希望のゼミに入れなかった場合には、第2希望以降をふまえて定員に満たないゼミの所属になります。

3) 3年演習・4年演習

1つのゼミを20名程度で編成します。3学年、4学年を通じて、同じ教員のゼミを履修します。ゼミの選択は、2学年の秋学期に行います。ゼミの決定方法は、上記の2年演習の場合と同様です。3年演習と4年演習は原則として同一学年で履修することができません。演習の単位を修得できなかった場合には留年となります。

(2) 経営学科

1) 1年演習

1つのゼミを20名程度で編成し、所属するゼミは入学時に指定します。1年演習の未修得者は3学年に進級できません。

2) 2年演習

1つのゼミを20名程度で編成します。2年演習の選択は、1学年の秋学期に行います。各ゼミの指導計画を選択申込の前に発表しますので、それらを熟読の上、自由に選択してください。また、相談期間を設けますので、希望するゼミの担当教員に相談することもできます。ゼミによっては、希望者が定員を上回ることもあります。その場合には、面接やレポートなどにより、担当教員が履修者を選考することがあります。第1希望のゼミに入れなかった場合には、第2希望以降をふまえて定員に満たないゼミの所属になります。

3) 3年演習・4年演習

1つのゼミを20名程度で編成します。3学年、4学年を通じて、同じ教員のゼミを履修します。ゼミの選択は、2学年の秋学期に行います。ゼミの決定方法は、上記の2年演習の場合と同様です。なお、3年演習の未修得者は4年演習および卒業研究を履修できません。演習の単位を修得できなかった場合には留年となります。

19. 卒業論文・卒業研究

1) 経済学科

経済学科には、4学年の必修科目として卒業論文（2単位）があります。3年演習または4年演習で作成した研究計画に基づいて、各自の卒業論文を完成します。その際、原則として3・4年演習の担当教員から指導を受けます。所定の期日までに卒業論文を仕上げ、提出します。

2) 経営学科

経営学科には、4学年の必修科目として卒業研究（2単位）があります。3年演習で作成した研究計画に基づいて、各自の卒業研究を完成します。その際、原則として、3・4年演習の担当教員から指導を受けます。所定の期日までに、卒業研究を論文に仕上げ、提出します。その後、卒業研究の発表会が行われ、そこでは原則3・4年演習担当教員が主査、3・4年演習担当教員以外の経営学科の教員が副査となり審査が行われます。

20. 選択科目

選択科目には、所属学部・学科の学問分野（これを主専攻とよびます）とは別の、下記の各学問分野の科目（他の学部・学科の専門基礎・発展科目に当たる科目）が置かれています。主専攻の枠を超えて他の学問分野の科目をも履修し複数の学問分野を学修することにより、現代社会が求めている複眼的な視野と能力を養い、個性あふれる人材を育成することを目的としています。

選択科目の学問分野

経済学（経営学科のみ）
経営学（経済学科のみ）
流通情報学
社会学
法学
スポーツ健康科学

選択科目は、いくつの学問分野からでも履修することができ、一分野ごとの履修単位数の上限もありません。

21. 単位の認定

大学の正規の授業以外に、学生のキャリア開発に関連する諸活動や公的機関による資格・検定試験の合格などに、教育課程表にある未修得の科目を履修したものとして単位を認定します。なお、各試験の「合格証（成績表・認定証など）」は申請日から過去3年間のものを有効とします。これらについての履修登録は必要なく、それぞれの認定要件を満たした段階で申請すると、単位が認定されます。認定される単位数は合計で60単位までです。また、認定された単位数は、学年別の最高履修単位数には含まれません。

(1) 外国語科目の単位認定

公的な機関による下の表に記した検定試験などで基準点以上の成績を修めた者が、所定の手続きを経た場合には、教育課程表にある外国語科目を履修したものとみなし、その単位を認定します。

認定科目と試験の種類

			1 単位認定	2 単位認定	4 単位認定	6 単位認定
英語	英語検定	日本英語検定協会	準 2 級	2 級	準 1 級	1 級
英語	TOEIC L&R	ETS	400 点以上	450 点以上	550 点以上	700 点以上
英語	TOEIC Bridge L&R	ETS	80 点以上			
英語	TOEFL	ETS		450 点以上	500 点以上	550 点以上
英語	TOEFL iBT	ETS		45 点以上	61 点以上	79 点以上
英語	IELTS	British Council	4.0 以上	5.0 以上	6.0 以上	7.0 以上
中国語	中国語検定（中検）	日本中国語検定協会		準 4 級	4 級	3 級以上
中国語	漢語水平考試（HSK）	漢語水平考試委員会		2 級以上	4 級	5 級以上
韓国語	韓国語能力試験（TOPIK）	韓国教育財団		2 級	3 級	4 級以上
韓国語	「ハングル」能力検定試験	ハングル能力検定協会		3 級	準 2 級	2 級以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定	ドイツ語学文学振興会		4 級	3 級	2 級以上
フランス語	フランス語技能検定	フランス語教育振興協会		4 級	3 級	2 級以上
スペイン語	スペイン語技能検定	日本スペイン協会		6 級	5 級以上	3 級以上
日本語	日本語能力	日本国際教育支援協会	2 級、N2	1 級、N1		
日本語	J.TEST 実用日本語検定	日本語検定協会	600 点以上	700 点以上		
日本語	日本留学	日本学生支援機構		260 点以上		

- ・ TOEIC および TOEFL の基準点は変更する場合があります。
- ・ TOEIC には「一般公開テスト」（SP）と「団体特別受験」（IP）の2種類があります。
 - * 「一般公開テスト」がいわゆる TOEIC で、TOEIC 運営委員会とアメリカの公的機関である ETS（Educational Testing Service）により正式な認定証が発行されます。
 - * 「団体特別受験」は各企業・大学が責任をもって実施する試験で、正式な認定証は発行されません。ただし、TOEIC 運営委員会と実施団体による認定証は発行されます。
 - * 本学では、「一般公開テスト」「団体特別受験」のどちらのスコアでも単位認定の対象とします。

- 1) 単位認定は、春学期定期試験期間最終日までに申請があったものについては、その春学期に行い、秋学期定期試験期間最終日までに申請があったものについては、その秋学期に行います。卒業・進級学年にあつて卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までに申請をしてください。
- 2) 単位認定を希望する者は、教務課窓口それぞれの試験の「合格証（成績表・認定証など）」を学生証とともに提示の上、窓口備付けの「単位認定申請書」に必要事項を記入して「合格証のコピー」とともに提出して申請してください。申請時に「学生証」「合格証（成績表・認定証など）」「合格証（成績表・認定証など）のコピー」の3点を持参してください。
- 3) 同一の外国語で複数の試験・級に合格した場合は、最上位の試験・級のみが単位認定の対象となります。すでに異なる試験・級・得点により単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は、認定済みの単位数を減じた単位数です。
- 4) 認定を受けられる単位数は、最高で6単位です。
- 5) 認定される科目は、教務課で確認してください。申請時に履修中である科目は認定の対象になりません。
- 6) 日本語の単位認定を行う場合は、外国語科目の「日本語」各科目のほか、「(外) ビジネス日本語Ⅰ・Ⅱ」も認定科目の対象となります。

(2) 外国留学

本学の「留学に関する規則」に基づき、外国留学をした学生（~~外国人留学生を除く~~）に、留学中の学修内容を審査した上で、教育課程表にある科目の単位認定を行います。

- 1) 外国留学を希望する学生は、留学2ヶ月前までに「留学願」を学長に提出し、国際交流センターの承認を受けてください。
- 2) 単位認定を希望する学生は、留学先からの「出席状況および成績に関する証明書」、「修了証」等を添付し、「単位認定願」を学長に提出してください。
- 3) 単位の認定は、国際交流センターの小委員会が原案を作成し、教授会の議を経て決定します。
- 4) 留学期間中の「演習」については、担当教員と留学者がインターネット等を利用しながら、相互に緊密な連絡を取り合ってください。担当教員は留学者に対して必要な教育、指導を行い、単位を付与します。演習の単位は認定単位には含めません。
- 5) 外国留学をした学生には、「海外研修」（2単位）の単位認定も行われます。

(3) キャリア科目の単位認定

キャリア科目のうち、「RKU実践」、「海外研修」、「災害ボランティアⅠ・Ⅱ」、「インターンシップ（海外）」、「キャリア基礎（言語）」、「キャリア基礎（計算）」、「キャリア発展（文章）」、「キャリア発展（数理）」は認定科目です。

1) RKU 実践

日常のボランティア活動に対して、所定の要件を満たした場合に単位を認定します。

- ① 対象となるボランティア活動は、大学が認める無報酬の活動です。
- ② 活動の3週間前に「RKU 実践活動届」を教務課に提出してください。

- ③ ボランティア活動の実働3時間を1ポイントとし、合計15ポイントで1単位認定します。ただし、1日2ポイントまでとし、単位認定は在学中1回限りです。
- ④ ボランティア活動参加者は、参加のつど「RKU 実践活動報告書」を別途定める証明部門に提出し、「RKU 実践活動証明書」を受け取り保管しておきます。
- ⑤ 単位認定を希望する場合は、「RKU 実践単位申請書」に15ポイント分の「RKU 実践活動証明書」を添えて教務課へ提出してください。
- ⑥ 単位認定は、秋学期定期試験終了時まで申請のあったものについては、申請のあった年度に行い、同試験終了後に申請のあったものについては次年度に行います。ただし、春学期での卒業を希望する者から春学期定期試験終了時まで申請のあった場合は春学期に行います。

2) 海外研修

「留学に関する規則」に基づき、「海外研修」2単位を認定します。

3) 災害ボランティア I・II

東日本大震災などの災害発生に関する災害ボランティア活動の参加者に対して、その活動が所定の要件を満たす場合に単位を認定します。

- ① 災害ボランティア活動が45時間相当の場合は1単位、90時間相当の場合は2単位を認定します。
- ② 単位認定を希望する場合は、事前に学生生活課へ「災害ボランティア活動届」を提出し、活動終了後「災害ボランティア単位認定申請書」に「ボランティア活動日誌」「ボランティア活動証明書」(受け入れ機関・団体の証明)を添えて教務課へ提出してください。

4) インターンシップ (海外)

~~国際交流センターにおいて定める「海外におけるインターンシップ」に参加した学生に、「インターンシップ (海外)」2単位を認定します。~~

1. 大学で募集するカナダ研修 (JTB 海外キャリア教育プログラム)

2. 「インターンシップ (海外) 活動届」を事前に国際交流センターに提出し大学で承認を受けたインターンシッププログラム

- ① 対象となるインターン活動は、国際交流センターおよび大学が認める無報酬の活動です。
- ② 活動の2か月前までに「留学願」とともに「インターンシップ (海外) 活動届」を国際交流センターに提出し、承認を得てください。
- ③ 海外での活動の実働時間は、1日3時間以上6時間以内で、90時間で2単位の単位申請ができます。単位認定は在学中1回限りです。

5) キャリア基礎 (言語) (計算)、キャリア発展 (文章) (数理)

下記(4)資格取得に記載されている資格・検定試験に合格した場合に、該当する科目を認定します。キャリア基礎 (言語) (計算)、キャリア発展 (文章) (数理) は、すべて1単位の認定科目です。

(4) 資格取得

大学が指定した資格・検定試験に合格した者に単位を認定します。

- ① 資格・検定試験の種類により、資格・検定試験に該当する科目を認定します。
- ② 単位認定は、春学期定期試験期間最終日まで申請があったものについては、その春学期に行い、秋学期定期試験期間最終日まで申請があったものについては、その秋学期に行います。卒業・進級学年にあって卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず卒業を希望する学期の定期試験期間最終日まで申請をしてください。

- ③ 単位認定を希望する者は、教務課窓口それぞれの試験の「合格証（成績表・認定証など）」を学生証とともに提示の上、窓口備付けの「単位認定申請書」に必要事項を記入して「合格証のコピー」とともに提出して申請してください。申請時に「学生証」「合格証（成績表・認定証など）」「合格証（成績表・認定証など）のコピー」の3点を持参してください。
- ④ 卒業単位として認められる単位は最大20単位です。
- ⑤ 単位を認定する科目と資格・検定試験は表の通りです。なお、年度によって変更となる場合があります。

(5) 法学関連科目の単位認定

法学検定およびビジネス実務法務検定試験に合格した学生に、下記の通り単位の認定をします。

- 1) 単位認定は、春学期定期試験期間最終日までに申請があったものについては、その春学期に行い、秋学期定期試験期間最終日までに申請があったものについては、その秋学期に行います。卒業・進級学年にあつて卒業・進級のため単位認定が必要な場合は、必ず卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までに申請をしてください。
- 2) 単位認定を希望する者は、教務課窓口それぞれの試験の「合格証（成績表・認定証など）」を学生証とともに提示の上、窓口備付けの「単位認定申請書」に必要な事項を記入して「合格証のコピー」とともに提出して申請してください。申請時に「学生証」「合格証（成績表・認定証など）」「合格証（成績表・認定証など）のコピー」の3点を持参してください。
- 3) 法学部の学生については、下の表に示した科目から認定します。また、法学部以外の学生については、選択科目の法学関連の科目から認定します。
- 4) 同一の検定試験で複数の級に合格した場合には、上位の級のみが単位認定の対象となります。異なる級の合格によりすでに単位認定を受けている場合は、新たに認定を受けられる単位数は認定済みの単位数を減じた単位数です。
- 5) 認定を受けられる最高単位数は総計8単位です。
- 6) 認定される科目は、教務課で確認してください。申請時に履修中である科目は認定の対象になりません。

	認定単位数			認定科目
	4単位	6単位	8単位	
法学検定 （財）日弁連法務研究財団 （社）商事法務研究会	ベーシック 〈基礎〉コ ース	スタンダー ド〈中級〉 コース	アドバンス ト〈上級〉 コース	法学特殊講義 法律実務研究 スポーツと法（各科目） 法と文化（各科目）
ビジネス実務法務検定 東京商工会議所	3級	2級	1級	

22. 資格の取得

(1) 教員免許

経済学科では、中学校教諭一種（社会）および高等学校教諭一種（地理歴史・公民）、経営学科では高等学校教諭一種（商業）の教員免許を取得することができます。別冊「教職課程履修の手引き」を参照してください。

(2) 社会福祉主事（任用資格）

厚生労働大臣の指定する科目を修めて卒業した者に与えられる任用資格であり、以下の科目から3科目以上を履修し、卒業した者に与えられます。

法学Ⅰ・Ⅱ
教育学Ⅰ・Ⅱ
心理学Ⅰ・Ⅱ
社会学Ⅰ・Ⅱ
社会保障論Ⅰ・Ⅱ
労働経済論Ⅰ・Ⅱ
経済政策論Ⅰ・Ⅱ（経済学科のみ）
社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ（経済学科のみ）
地域福祉論Ⅰ・Ⅱ（経済学科のみ）
公的扶助論（経済学科のみ）

履修上の留意点

- *Ⅰ・Ⅱと分かれている科目（たとえば地域福祉論Ⅰ・Ⅱ）は、 Semester制では2科目となりますが、社会福祉主事の科目としては1科目と数えます。Ⅰ・Ⅱと分かれている科目の履修については、通年で（Ⅰ・Ⅱともに）履修してください。
- *任用資格とは、任用されて（雇用されて）初めて活かすことのできる資格です。就職のための資格ではありませんので、よく考えて履修してください。

23. 履修計画と履修モデル

(1) 経済学科

経済学部経済学科での4年間の学修を効果的に進めるためには、自分の問題意識や将来の進路に関連づけて、履修の計画を立てることが重要です。

そこで、経済学科では、皆さんの履修の計画の参考となるように、4つの履修モデルを設定しています。4つのモデルは緩やかな誘導であり、どのモデルを選ぼうと、原則的にすべての科目を選択履修することができますし、いずれの履修モデルとも異なる独自の科目履修をしていくことも可能です。しかし、4つの履修モデルから1つを選び、その内容にそって、学年ごとに履修科目を決めることにより、学修をより深化させることが出来ます。

まず1学年では、どの履修モデルにおいても重要となる経済学の基礎的な科目が設置されています。必修科目として「基礎ミクロ経済学・基礎マクロ経済学」があり、この科目は全員が必ず履修しなければなりません。このほか1学年から選択できる選択必修科目として、「統計学概論Ⅰ・Ⅱ」「日本経済史Ⅰ・Ⅱ」「西洋経済史Ⅰ・Ⅱ」「資本主義経済論Ⅰ・Ⅱ」があります。

2学年からは、各自の興味と進路に応じて4つの履修モデルに分かれます。科目を選択する際、まず各モデルに配当された専門基礎科目と専門発展科目を履修するとよいでしょう。専門基礎科目は履修モデルの中核となる科目で、専門発展科目は専門分野についての理解を深めるための科目で、卒業のためには、4年間で専門基礎科目を32単位（以上）、専門発展科目を8単位（以上）取得する必要があります。より幅広い知識を得るために、各モデル以外の選択科目を履修することも可能です。

それぞれのモデルには、モデルに沿った体系的な理解を積み重ねるうえでもっとも重要で中核的な内容を扱う科目である「モデル・コア科目」が配置されています。ほとんどの専門基礎科目といくつかの学部共通科目が、それぞれのモデルの特性を考慮して、いずれかのモデルの「モデル・コア科目」に配当されています。まず「モデル・コア科目」を履修して基礎的な理解を深め、次に関連する専門発展科目などを履修するとよいでしょう。

「産業と労働」モデル

現代の経済社会では、産業の担い手である企業だけでなく、私たち自身も消費者や労働者として活動し、私たち自身が「経済」と密接に繋がっています。それゆえ、複雑な現代社会に的確に対応するためには、この「経済」というシステムを理解することが非常に重要です。「産業と労働」モデルでは、企業、消費者、そして労働者の行動と経済の動きを論理的に理解し、急激に変化する経済社会における問題や政策課題を多様な視点から分析できる人材を育成します。

「金融と情報」モデル

IT化の進展によって世界中の情報が瞬時に手に入る現在、必要な情報を的確に分析し、迅速に行動することが求められています。とくにお金を扱う金融の分野では、物価、金利などマクロ経済全体の動向や銀行・企業の経営情報を収集し、家計のライフデザインや資産運用、企業の経営・財務戦略などに役立つよう、様々な視点から情報を分析する能力が必要となります。「金融と情報」モデルでは、複雑な金融のしくみを理解し、情報の活用法について学び、情報化社会で活躍できる人材を育成します。

「公共と福祉」モデル

公共部門（政府）の役割は時代に伴って変化し、その活動の範囲が確実に拡大しています。近代社会において、先進国を中心に福祉国家が形成されてきましたが、その一方で、社会保障などの政府支出の増加は巨額の財政赤字をもたらし、日本においても、少子高齢化が進むなかで、難しい対応を迫られています。「公共と福祉」モデルでは、市場経済における政府の役割と福祉の重要性について十分な知識と理解をもち、経済社会に貢献できる人材を育成します。

「地域と世界」モデル

経済のグローバル化が進む中で、私たちの暮らす地域と世界はより密接な関連性を持つようになっています。地域にある企業でも、海外への進出をにらみながら、世界中の企業・消費者と取引していますし、他方では、海外の企業が私たちの暮らす地域に立地展開する動きも見られ、世界経済の動向が地域経済の動向とリンクする時代を迎えています。「地域と国際」モデルでは、ローカルな地域経済と、グローバルな国際経済をバランスよく学び、経済問題についての多面的な理解力の向上を目指し、地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成します。

履修学年	科目種類	科目名			
1 学年以降	必修	基礎ミクロ経済学 基礎マクロ経済学 1年演習 情報リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ			
	モデル・コア科目	専門基礎	統計学概論Ⅰ・Ⅱ 日本経済史Ⅰ・Ⅱ 西洋経済史Ⅰ・Ⅱ 資本主義経済論Ⅰ・Ⅱ		
		専門発展	経営学総論Ⅰ・Ⅱ 簿記論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス概論Ⅰ・Ⅱ		
	外国語科目				
履修モデル		産業と労働	金融と情報	公共と福祉	地域と世界
2 学年以降	必修	2年演習 リベラルアーツ演習			
	モデル・コア科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ 交通論Ⅰ・Ⅱ 環境経済論Ⅰ・Ⅱ			
		専門基礎	産業組織論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ	金融論Ⅰ・Ⅱ	財政学Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ
	専門発展	国際経済論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 経済地理学Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論Ⅰ・Ⅱ 財政学Ⅰ・Ⅱ 公共経済学Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ	産業組織論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 日本経済論Ⅰ・Ⅱ	財政学Ⅰ・Ⅱ 社会保障論Ⅰ・Ⅱ 産業組織論Ⅰ・Ⅱ 労働経済論Ⅰ・Ⅱ
	選択科目	経済データ演習 経営データ演習 会計学Ⅰ・Ⅱ マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ 野村証券寄付講座 NX(日本通運) 寄付講座Ⅰ・Ⅱ 全国通運連盟寄付講座 デジタルマーケティング実践講座			
	選択科目	人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ 事業創造論Ⅰ・Ⅱ	経営情報論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ	社会福祉原論Ⅰ・Ⅱ 公的扶助論	流通政策論Ⅰ・Ⅱ Eビジネス論Ⅰ・Ⅱ
3 学年以降	必修	3年演習 4年演習 卒業論文			
	モデル・コア科目	経済学史Ⅰ・Ⅱ 計量経済学 環境経済論Ⅰ・Ⅱ			
		専門基礎	情報経済論Ⅰ・Ⅱ	地方財政論 経済政策論Ⅰ・Ⅱ	地域経済論Ⅰ・Ⅱ 経済発展論Ⅰ・Ⅱ 食料・農業経済学Ⅰ・Ⅱ
	専門発展	企業論Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ	リスクマネジメントⅠ・Ⅱ ベンチャーファイナンス 証券市場論	公共法務特殊講義(行政職)Ⅰ・Ⅱ	国際金融論Ⅰ・Ⅱ
	専門発展	経済学特殊講義 ビジネスプレゼンテーションⅠ・Ⅱ			
	選択科目	労働法Ⅰ・Ⅱ 広告論Ⅰ・Ⅱ	国際金融論Ⅰ・Ⅱ ロジスティクス実践講座 IoTロジスティクス実践講座	企業論Ⅰ・Ⅱ リスクマネジメントⅠ・Ⅱ 地域ビジネス実践講座	証券市場論 ロジスティクス実践講座 地域ビジネス実践講座
キャリア科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ インターンシップ キャリアカウンセリング 職業選択論 RKU入門 RKU実践 海外研修 災害ボランティアⅠ・Ⅱ インターンシップ(海外) キャリア基礎(言語) キャリア基礎(計算) キャリア発展(文章) キャリア発展(数理)				
将来の職種(職種・業種)	NPO、コンサルタント、研究機関など各種団体	金融機関・情報関連企業	医療・福祉サービス、保険会社、共済等	商社やインフラ関連など、流通業・運輸業等	
民間企業 国家・地方公務員					

(2) 経営学科

1) 将来目標の計画と能動的学修の実践

日本の人口は2010年の1億2806万人から人口減に転じ、30年以降は、毎年100万人ずつ人口減になると推測されています。2060年には8674万人に減少することになります。主として年金に頼る65歳以上の高齢者人口の増加に対して、生産と消費の担い手である15歳から65歳未満の生産年齢人口は、1995年頃から人口減に転じています。おおむね毎年75万人の生産年齢人口が失われていくこととなります。産業界は、限られた天然資源だけでなく、今まで経験をしたことがない国内市場の縮小と対峙することとなります。

このような経営環境にあって、企業活動を維持し発展させるには、これまでにまして、イノベーションや起業に取り組めるマネジメント能力のある人材への期待が大きくなります。そして、中小企業を含めて、中国にとどまらずインド、インドネシアなどの急激に発展しつつあるアジア市場へ進出することが避けられないため、グローバル人材の時代を迎えつつあります。企業が求めるグロー

バル人材には、社会人として求められるリベラルアーツとして、「①異文化への理解力があり多様な価値観を認められること」、「②日本の文化や歴史や現代的問題に関心を持ち、未経験の問題を解決する際に求められる基礎的な思考力やコミュニケーション能力があること」、また、企業活動に直結するマネジメントを学修した経営学科卒業生として自らキャリアデザインを試みながら、「③与えられた職務に粘り強く取り組めること」が求められています。

学士（経営学）修得までの能動的学修プロセス			
1年	2年	3年	4年
学生と教員によるラーニングポートフォリオ活動			
1年演習	2年演習	3年演習	4年演習
経営入門 経営学総論Ⅰ・Ⅱ	流通論Ⅰ・Ⅱ 会計学Ⅰ・Ⅱ	卒業研究（計画）	卒業研究（発表会・審査会）
【実習系科目】 簿記論Ⅰ・Ⅱ ビジネスデータベース演習 ソーシャルメディア演習 経営データ演習 経済データ演習	【経営学科独自キャリア系科目】 起業家育成講座Ⅰ・Ⅱ ビジネスプレゼンテーションⅠ・Ⅱ		
【経営学科知識系科目】 ①起業・マネジメントモデル ②マーケティング・流通モデル ③会計・ファイナンスモデル			

このような時代の要請に応えるために経営学科は、起業およびマネジメントの実践ができる人材の育成に取り組んでいます。そのために、企業の現場で活躍できるように、最先端のソーシャルメディア情報技術はもちろん、経営戦略と事業創造、最新のネットビジネスと流通戦略、そして、簿記・会計に関する専門科目を多数設けています。さらに、4年間に渡り、ゼミでの活動として、学生と教員の協同による学修実践活動が展開されます。

学修実践活動では、教員の助言を受けながら、個々の学生が将来目標を計画し、それに相応しい自分の履修モデルをデザインし、実践し、評価することになります。また、上級生や下級生を含めた学生相互の学修活動も行われ、マネジメントに求められるリーダーシップやチームワークを経験することになります。

なお、現代社会、特に経済的先進国は、多様な組織により社会が構成されています。生産、教育、福祉など、組織が主体になって財・サービスを創造し、社会に貢献しています。組織には、基本的に営利組織（株式会社など）と非営利組織（官公庁、病院、学校、NPOなど）があります。経営学科では、営利組織の経営に関する科目が多いですが、非営利組織についても配慮しています。

2) 学修計画と基本履修モデル

マネジメントの基本は、「社会のため力を尽くして物事を営む」「人々のために工夫を凝らしてモノやサービスを創造する」「継続的・計画的・経済的に事業を遂行する」ことであり、マネジメントの研究は、営利組織、非営利組織の経営を人間的側面・技術的側面・経済的側面から研究し、よりよい経営方法を創造することを目的としています。

個人別履修モデルデザインのための基本履修モデル			
	1年	2年	3年・4年
①起業・マネジメント	E ビジネス論Ⅰ・Ⅱ	事業戦略論 組織戦略論 人的資源管理論Ⅰ・Ⅱ マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 経営情報論 管理会計論	経営財務論Ⅰ・Ⅱ 経営情報システム論 ベンチャーファイナンス リスクマネジメントⅠ・Ⅱ
②マーケティング・流通	E ビジネス論Ⅰ・Ⅱ	マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 流通論Ⅰ・Ⅱ 事業戦略論 組織戦略論 経営情報論	流通政策論Ⅰ・Ⅱ 消費者行動論Ⅰ・Ⅱ 広告論Ⅰ・Ⅱ 経営情報システム論
③会計・ファイナンス	簿記論Ⅰ・Ⅱ	会計学Ⅰ・Ⅱ 原価計算論Ⅰ・Ⅱ 金融論Ⅰ・Ⅱ 経営財務論Ⅰ・Ⅱ 中級簿記論Ⅰ・Ⅱ	管理会計論Ⅰ・Ⅱ 商法（会社法）Ⅰ・Ⅱ 税法（法人税法） ベンチャーファイナンス 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 上級簿記論Ⅰ・Ⅱ

経営学科の学生は、学修実践活動をととして、自分自身の履修モデルを計画することになっています。ここに自分の履修モデル計画の核となる「①起業・マネジメントモデル」、「②マーケティング・流通モデル」、「③会計・ファイナンスモデル」の各基本履修モデルを提示します。

① 起業・マネジメントモデル

ソーシャルメディアを中心として ICT（情報通信技術）が日常生活に行き渡る現代はネット社会と呼べます。あらゆる業界や業種において、それらを道具として使いこなし、消費者ニーズの多様化にともなう環境変化にもすばやく対応して意思決定を行い、組織を動かし、事業を創造・展開していく必要があります。企業起業・マネジメント履修モデルでは、そうした経営環境の変化に柔軟に適應できる人材の育成のため、経営学科教員の研究内容が反映された最新の経営理論を提供しています。この履修モデルを中心に、将来目標、興味や関心に応じて個人別履修モデルをデザインした経営学科卒業生は、さまざまな業種で経営プロフェッショナルとして第一歩を踏み出し、やがてネット社会における人材として幅広く活躍できるでしょう。

② マーケティング・流通モデル

どのような企業・組織でも提供する商品・サービスは市場に受け入れられなければ、経営を持続できません。マーケティング・流通履修モデルでは、変化する消費市場に受容される製品・コンセプト・ブランドの形成方法、多様化するライフスタイルを迅速に読み取り、対応していくための生産者と販売業者の関係の構築方法などを学ぶために、経営学科教員の研究内容が反映された最新の経営理論を提供しています。マーケティング・流通履修モデルを中心に、将来目標、興味や関心に応じて個人別履修モデルをデザインした経営学科卒業生は、不確実性がますます高くなっている現代の市場において、売れる仕組みを自ら構築できる人材として幅広く活躍できるでしょう。

③ 会計・ファイナンスモデル

現代社会では、人々は組織活動を通してビジネス・事業の成功に挑戦します。ビジネス・事業を効率的に推進するには、資金の流れを体系的に把握する能力が不可欠です。会計・ファイナンス履修モデルは、企業に関する資金の流れを数字の面から理解することにより、競争相手との比較を通して、自社の経営の良し悪しを判断し、企業が資金を調達する手法を学ぶために、経営学科教員の研究内容

が反映された最新の経営理論を提供しています。会計・ファイナンス履修モデルを中心に、企業経理専門職、公務員などのほか、会計大学院への進学、税理士、国税専門官、公認会計士などの専門職へ将来目標に応じて個人別履修モデルをデザインした経営学科卒業生は財務に精通した人材として幅広く活躍できるでしょう。

2024年（令和6年）4月発行

経済学部

履修要綱

流通経済大学



流通経済大学

<https://www.rku.ac.jp/>